

# 『主体的・対話的で深い学び』を実現するための実践研究事業」授業研究会レポート No.3

## 安芸市立安芸第一小学校 授業研究会

平成30年6月8日（金）

算数科 第3学年「ぼうグラフと表」 岡 龍作 教諭

授業改善を確かな形にするために、新たな学び場がスタートしました。本授業研究会は、これからの「高知の授業づくり改革」に向けて、こういった視点が大切なのかを参加者と共有し、明日からの授業づくりの方向性を確認するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業の質を高めることを目的としています。

### 本時の目標

観点別の二次元表から読み取った特徴を表現することができる。

### 授業の視点

\*けがのデータを再度洗い直し、時間・場所・種類の3つの観点から読み取れるキーワードを押さえながら、全校に伝えていきたいことは何かを追求させていきたい。



### 最終板書

め 全校につたえることは何か。

ま けがをへらすために、「場所」「しゅるい」「時間」のことを考えた。どうやってつたえる？

問 「場所」「しゅるい」「時間」で何か分かるかな？

6月は教室での遊動の方に気をつける。

けがが多すぎ6月 だぼくが

休み時間に気を付けよう

表やグラフの見方

- 〇〜が1番多い
- 〇〜が1番少ない
- 〇〜と〜くらべて
- 〇〜と〜の差は
- 〇〜がふえている
- 〇〜がへっている

自 友 見

場所	4月	5月	6月	合計
体育館	25	33	49	107
運動場	63	88	34	185
教室	17	39	131	187
ろうか	2	5	42	49
合計	107	165	256	528

しゅるい	4月	5月	6月	合計
すりきず	56	71	52	179
だぼく	25	43	147	215
ねんざ	22	33	23	78
きりきず	4	18	34	56
合計	107	165	256	528

時間	4月	5月	6月	合計
休み時間	56	97	153	306
ぼうかご	31	45	53	129
そうじ中	12	14	15	41
しゅぎょう中	8	9	35	52
合計	107	165	256	528

① 1番多いのはだぼく(6月のけが)

② すりきずは5月がしゅるい1番多い

③ 4.5.6月をくらべてもだぼくが99.

① 4月 休み時間 5月も 6月も99.

②

ふ 全校にどうやってつたえた..か?

両教室の教室は4月5月より6月が1番ふえた。  
② 6月は運動場

### ここがポイント!

本単元では、データを活用する目的意識をしっかりと持たせるために、何のためにデータを収集・整理・分析するのか、その動機付けの出発点となる児童の疑問を位置づけることが大切です。また、児童にとって身近な生データ「校内のけが」を使って、問題把握⇒計画⇒データ⇒分析⇒結論という統計的探究プロセスのサイクルを回す中で、目的に応じて表やグラフに表すことのよさを学びとともに、扱うデータの範囲を広げながら統計的な問題解決活動が深まることを目指します。本時では、「6月のけがをへらそう」の実現のために、けがに関する3つの二次元表を読み取り、特徴を捉えさせるとともに、子供が追求すべき問いに向かってそれらを関連付けて考えることがポイントとなります。

## 協議の視点

- \*子どもの課題意識により沿った流れになっていたか
- \*データの提示の仕方は適切であったか。

### 授業リフレクション

#### 子供の課題意識と本時のめあてについて

授業リフレクションでは、提示されためあてと3つのデータの読み取りが子供の課題意識に沿った流れになっていたかについて協議されました。参加者からは、「問いとめあては適切であったか。」「データの読み取りと生活場面からの推測との混同が起きていた。子供たちは算数的価値を見だしていたのか。」「二次元表の見方が弱かった。データから何を読み取ったらよいか。教師の切り返して深める必要があった。」などの意見が出されました。



ただデータを表やグラフに表して読み取る学習をするのではなく、子供の追求すべき問いに沿った文脈の中でデータを扱うことが大切です。そして、表やグラフに表して分析す



ることを通じて問題を解決する活動を行うことが大切になります。めあてを設定する際には、こういった結論に辿り着くのかを想定することが必要です。そして、意味ある問題解決活動を意識し、分析して見いだした特徴や傾向を共有し結論をまとめるという学習を展開していきます。つまり、結論からめあてを考えることが大切です。

#### 期待されるデータの活用の学び

統計はこれからの時代を生きる子供たちの必須ツールです。この学習を通して統計的探究プロセスを回すことができる子供を育てる必要があります。そのためには、与えられた教材に対してグラフを読んだりかいたりする内容ベースの授業を再考しなければなりません。

つまり、日常生活から問題を見だし、データを集め分析し結論を求め、そこから新たな問題を見だし、課題解決に向けて学び進めていく統計的探究プロセスに沿った単元を設定することが大切です。



#### 提案授業から見えてきたこと

単元を通して、「今の学習や活動は何のためにしているのか?」という目的を常に児童に意識させることが大切です。目的やゴールがはっきりしていないと児童の思考の広がりはなく、やらされ感が募っていきます。だからこそ、児童に目的意識をしっかりとさせながら、展開していけるような単元・授業づくりを目指していきたいです。



#### 参加者の声

- 子供がデータを必要とするような発問や単元づくりをしていきたいです。
- 小学校の段階でここまで見方・考え方を発展させていることが分かり、中学校では更に発展させて批判的に見る力をつけていく必要があると感じました。

- ストーリー性のある単元構成を考えることで児童に興味・関心をもたせられることや単元を通しためあてを設定することで、探究的に考えられる児童が育つことが分かりました
- データの活用ではPPDACサイクルが回るように、身近なデータを用いた単元を描いていきたいです。
- 中1のデータの活用の単元づくりの参考になりました。

check!

次回 平成30年8月16日(木)9時から教材研究会1年「おおきさくらべ-ひろさをくらべよう-